

なんぶ百選紀行

南部町は、10月に合併5周年を

迎え、その記念事業として町内の史跡・文化・自然・風景や生き物たちを写真入りで紹介した「なんぶ百選」の冊子を作りました。みなさんにはなじみが濃いものも薄いものもありますが、南部町の良さを再発見してもらうため、「なんぶ百選」を観光バスに乗った気分で行きたいと思います。

JR米子駅から国道180号線を南下していき、10分も走ると中央に高層マンションを擁す住宅街に出合います。南部町の始まりです。緩やかな上り坂を越えたところの右手にその名前の起源を鎌倉時代に持つという福田正八幡宮の参道口があります。宮司相見家の庭は、江戸初期の築庭なる回遊蓬菜庭園で、瀧・溪・径の俤を残し

ています。

今度は左手をご覧ください。遠くに手間要害山が町のランドマークとしてそびえています。この山の麓には、古事記上巻の赤猪岩伝説で知られ、大国主命を主神にその御親素戔嗚尊、稲田姫命を合祀した赤猪岩神社があります。



赤猪岩神社

さて、国道をさらに進んで行き、福成橋を渡ると右手に保育園が見えてきます。その背後から始まる法勝寺川土手の桜並木。4月上旬には約2キロにも亘って薄いピンク色のアーチが架かり見事です。



法勝寺川土手の桜並木

暖かな壁色の西伯病院を通り過ぎると法勝寺の町です。かつての宿場町の街中では、春先に一式飾りといつて、陶器、漆器、竹製品、金物等の類の同じ生活用品を使って飾り物を作る民衆芸術の展示披

露があり、さくら祭りや相まつて多くの人々の訪れを誘います。



法勝寺一式飾り

新法勝寺橋を渡り、国道に別れをつけて左折します。右手にあるお寺の参道口の真向かい、道路左沿いに行脚笠をかぶった地藏尊が見えます。落合の延命地藏です。詣ると長生きできるといふ噂でかつては遠方からの客も多かったようです。左折して福頼橋を渡ると、右奥に南部町最高峰の鎌倉山(731m)が見えます。この山が3